

高山市教育大綱（案）策定の考え方について

- ・ 高山市総合教育会議では、現在の教育現場が抱える課題や問題点、教育環境の整備などについて、地域との関わり、福祉・保健との関わり、キャリア教育、高校や大学との連携、食育や学校給食、文化・文化財、スポーツ、生涯学習など多岐にわたる視点から議論を進めてきた。
- ・ その中で、一人ひとりの子どもを妊娠期から自立まで継続的・横断的に支えることの大切さがクローズアップされ、かつ家庭、地域、保育園・幼稚園、学校、行政など社会全体で関わり合うことが子どもの育ちには不可欠であると共通認識された。
- ・ このことから、「教育・文化」「福祉・保健」「産業・労働」など教育に関係する各分野を分けて考えるのではなく、教育に関して各分野がそれぞれに関係し合い、同じ方向性を持つことが必要と考えた。
- ・ また、一言で子どもの育ちと言っても、子どもたちの成長段階に応じて各分野が関わるべき役割は異なるものであり、成長段階に応じ、それぞれの役割を果たすことが大切と考えた。
- ・ 具体的には、「これから子どもを産み育てていく時期」「遊びや人との関わりの中で人としての基礎を作り上げていく時期」「自ら主体的に学び成長していく時期」「社会の中で自らの脚で一人立ちしていく時期」という4つのライフステージに、子どもから大人まで生涯を通じて「豊かな人間性と創造性を高めるための環境の充実」という視点を加え、5つの視点でまとめることとした。
- ・ そのうえで、高山市教育大綱（案）は、子どもたちが人としてどのように育ってほしいのか、そのために高山市と高山市教育委員会が家庭、地域、民間、関係機関と力を合わせて取り組む際の基本方針（方向性）として定めることとした。
- ・ ただし、子どもの育ちは、行政だけではなく市民と意識を共有し、同じ方向性を持って進めていくことが何よりも大切であるため、行政が取り組むべき施策を羅列する方法ではなく、ともに関わる者にとっての道しるべとなるようなものが望ましいと考え、また表現も出来るだけ簡潔で分かりやすいものとした。

生まれ来る子どもたちが、

安心して希望に満ちた日々を送ることができるようにします

- ・妊娠期から社会人になるまでを通して安心して子育てできることが大切。
- ・まちづくり協議会や子ども教育参画会議での取組みなど、地域の中で子どもたちを育てる動きを更に広げていくことが必要。

などの議論をふまえ、

少子高齢化の中、安心して子どもを産み育てられる環境を整え、高山に生まれて来てくれた子どもたちに希望ある未来をつくりたいと考え、基本方針とした。

乳幼児期の子どもたちが、

人としてのあらゆる基礎を形成することができるようにします

- ・早い段階からその子にあった対応をすることで、特別に配慮が必要な子も大きな困難を感じず学校へ通えるようになるため、就学前からの継続した支援が必要。
- ・食事の取り方が将来の健康に大きく関わってくるため、小さい頃から食べることの大切さを知ってもらう食育が必要。
- ・夜更かしが多く、きちんと睡眠が取れないと体に良くない。しっかり睡眠をとる眠育が必要。

などの議論をふまえ、

乳幼児期の子どもたちが、家庭、地域、保育園、幼稚園などにおいて、家族や身近な人たちに見守られながら絆と愛情を育み、人としての基礎を養うことができるようにと考え、基本方針とした。

児童生徒が、

豊かな心、健やかな体、確かな学力をともに養い、

生きる力を身につけることができるようにします

- ・教育施設や機器の整備、学習の苦手な子への支援員の増加など、子どもの可能性を引き出す教育環境の整備が必要。
- ・学習指導要領の改訂により今まで以上に外国語教育が重視されるため、ALTや外部人材の活用などにより外国語学習の強化が求められる。
- ・自分の命を守ること、どう生きていくか考えること、地域の活動に参画し地域のことを考えて発信することなど、子どもたちが生きる力を身につけることが大切。
- ・不登校の子やその家族を地域で支える取り組みや、一人ひとりの居場所づくりが望まれる。
- ・福祉・教育・行政などが横のつながりを強め、子どもの一生の見通しを持って、自立した生活ができる人を育てることが必要。

などの議論をふまえ、

児童生徒が、仲間とともに徳・知・体をバランス良く養い、生きる力を身につけることができるようにと考え、基本方針とした。

社会に巣立つ若者が、

地域を支え、社会で活躍する志と能力を養うことができますようにします

- ・高校生が地域課題解決のため、地元企業や小中学校などと連携していろいろな取り組みを行っており、地域の活性化や地域で活躍できる人材育成のためには、高校との連携を強め、高校生が地域に参画する活動をより推進していくことが必要。
- ・地元企業の人材不足を解決するには、若者の地元へのU I J ターンを促進することが必要であり、市の様々な若者支援事業を高校生や大学生に積極的に情報発信し、将来、若者が戻ってきたくするような取り組みの推進が求められる。

などの議論をふまえ、

社会人として一人立ちしようとする若者が、地元に貢献したいという志を持ち、また、社会の一員として活躍してくれるようにと考え、基本方針とした。

誰もが、

日々の暮らしの中で、

歴史・伝統、自然・科学、文化芸術、スポーツに親しみ、

豊かな人間性と創造性を高めることができますようにします

- ・どの地域もそれぞれに地域の宝や魅力があるので、大人も子どもも自分の地域の良さ、お互いの地域の良さを学ぶことが大切。市民一人ひとりに、もっと高山や自分の地域の魅力を知ってもらい取り組みが大切。地域に誇りを持つことが地域の持続につながる。
- ・高山祭の後継者不足が課題になっており、地域の祭りの担い手になる人材を育てる仕組みづくりが求められる。
- ・文化財を守るだけでなく、文化財を上手に活用し、地域の活性化につなげることが求められている。
- ・トップアスリートを育てることも大切だが、スポーツ人口を増やすこと、日常的に運動することの楽しさを伝えることも大切である。
- ・全ての世代に学ぶ機会を提供することは必要。自分の役割を見つけて、社会に貢献できるような生涯学習の充実が望まれる。

などの議論をふまえ、

歴史文化、芸術、スポーツ、自然などに親しめる環境があることは、子どもから大人まで、どの年代にとっても必要なことであると考え、基本方針の一つに加えた。